

イネドロオイムシ (イネクビホソハムシ)

1 見分け方

成虫は体長4～5mmで、体色は頭部が黒色、胸部が橙赤色、翅が青藍色を呈している(写真1)。卵は長さ0.8mm、幅0.4mm前後の長卵型で、7～10粒の卵塊でイネの葉に産みつけられる(写真2)。産卵直後は鮮やかな黄色をしているが、次第に褐色となりさらに黒色に変わる(写真2)。幼虫の形状は洋なしのような形で頭部が黒色、腹部が淡い黒褐色を呈し、体長は成熟すると5mmになる。ただし外見上は排泄した糞を分泌物と混ぜて背負っているため、水田内では黒い泥のかたまりとして見える(写真3)。蛹は4mm前後で黄白色を呈し白い繭(写真4)で覆われている。

2 発生及び被害のようす

年1回の発生である。成虫で越冬し、越冬後の5月中旬頃水田ほ場に侵入し、イネ葉上に産卵する。孵化した幼虫はイネ葉をかすり状に食害する(写真5)。幼虫の加害期間は6月上旬～7月上旬に及び、被害が大きくなると(写真6)分けつ抑制による穂数の減少や、登熟歩合低下の原因となり減収する。イネ葉上で繭をつくりその内で蛹化する。羽化後は周辺雑草に移動してそのまま越冬する。

3 防除方法

育苗箱施用が一般的であり、本田内の茎葉散布や水面施用も可能である。水稻5%の減収を目安としたときの要防除水準は10頭/株(加害盛期)である。



写真1 成虫 (イネクビホソハムシ)

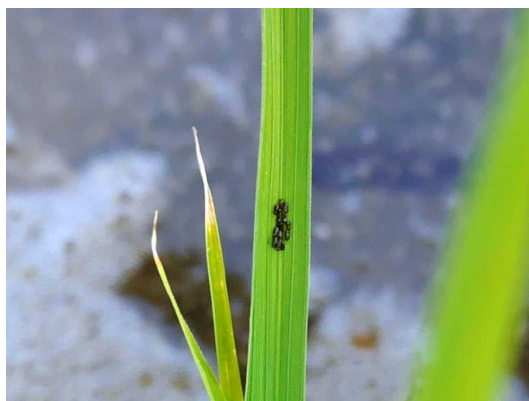


写真2 卵塊

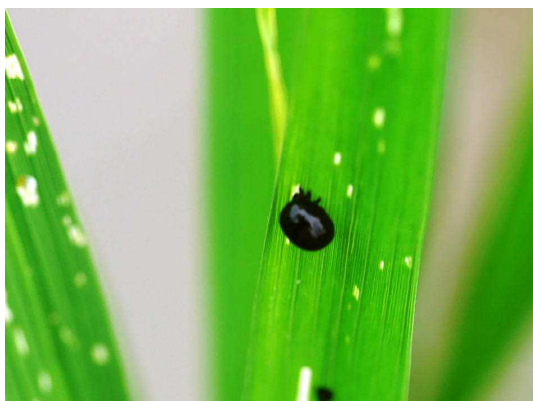


写真3 水田内の幼虫



写真4 繭



写真5 食害のようす



写真6 被害は場